

退院したら外来へいらっしゃい！！

～つながりのある看護を提供しよう～



医療法人 宝生会 P.L.病院

小児科・耳鼻科・整形外科 高橋 聖子

1.はじめに

P.L.病院は、大阪府南東部の富田林市に位置する370床の急性期病院です。大阪府以外にも和歌山県と奈良県の一部を診療圏とする地域の中核病院として地域医療のために尽力しています。

私たち、大和なでしこサークルは、小児科・耳鼻科・整形外科の合同サークルで、看護師10名で活動しています。途中退職者がありましたが、院長方針である『心ある親切を』をモットーにみんなで力を合わせて頑張りました。

2.テーマ選定

3科メンバー全員で、業務における問題点を出し合いテーマ選定表を用いて評価しました。

その結果、退院された患者様の継続看護ができるないことが一番の問題点としてあげられました。

DPC導入に伴い、入院期間の短縮が図られ継続看護の重要性が問われている現在、3科の中でも一番継続看護が必要な患者様の多い整形外科に的を絞ってテーマに取り組みました。

表1.テーマ選定表

問題点	重要性	緊急性	経済性	サービス性	取り組みやすさ	解決可能	評価点	着手順位
後片付けに時間がかかる (耳鼻科)	△	△	○	×	○	○	14	2
電話相談に多くの手がとられる (小児科)	○	○	×	○	×	△	13	3
退院患者様の継続看護ができるない (整形外科)	○	○	×	○	○	○	16	1

作成日：H19.4.25 作成者：後藤

3.活動計画

業務に追われ計画通りに進みませんでしたが、後半の追い込みで終了する事が出来ました。

表2.活動計画表

	計画					会合日
	4月	5月	6月	7月	8月	
テーマ選定	★	★				全員
現状把握		★	★			高橋・後藤
目標設定			→			伊藤・上村
要因解析			→	★★★★		福田・中谷
対策立案				→		上村・田中亜
対策実施				→	★★	全員
効果確認				→	★★	柏本・田中幹
標準化				→	★★	後藤

作成日：H19.4.30 作成者：田中亜

関わりを持つとは
外来受診時に看護師から、退院後問題となることなど
がないか聞くこと

4.現状把握

1.調査期間

H19年5月7日～6月18日までの6週間

2.調査方法

整形外科疾患で入院されており、退院後も

継続看護が必要で外来受診した患者様の数を調査

3.結果

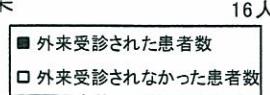


図1 退院後外来受診の有無の円グラフ
作成日：H19.6.20 作成者：高橋

継続看護がテーマのため、退院後初めて外来受診された患者様のうち実際に外来で看護師が関わりを持った患者様の数をさらに調査した。

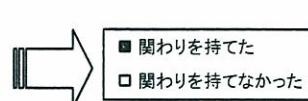


図2. 看護師が関わりを持ったかどうかの円グラフ
作成日：H19.6.20 作成者：高橋

サークル チーム名		大和なでしこ サークル				(2003年5月 結成)	
リーダー氏名 (職種)	後藤 美知代 (看護師)	所属部門	看護	月あたり会回数	3回		
リーダー経験年数	2年	QCストーリー	問題解決型	平均会合時間	60分		
メンバーの数	計10名(女10名)	活動内容	能率・CS	平均会合出席率	70%	テーマ歴	4件目

5.目標設定

関わりを持った割合を平成19年9月27日までに

退院後、初回外来受診される70%の患者様との関わりを目指す！！

30. 4% → 70%

【根拠】

予約日に来院されると関わりをもつための準備が出来るが、体調不良などで予約前に受診されたり、予約日が変更になっていることもあるため、100%を目標にする事は困難と考え70%の目標とした。

6.要因解析

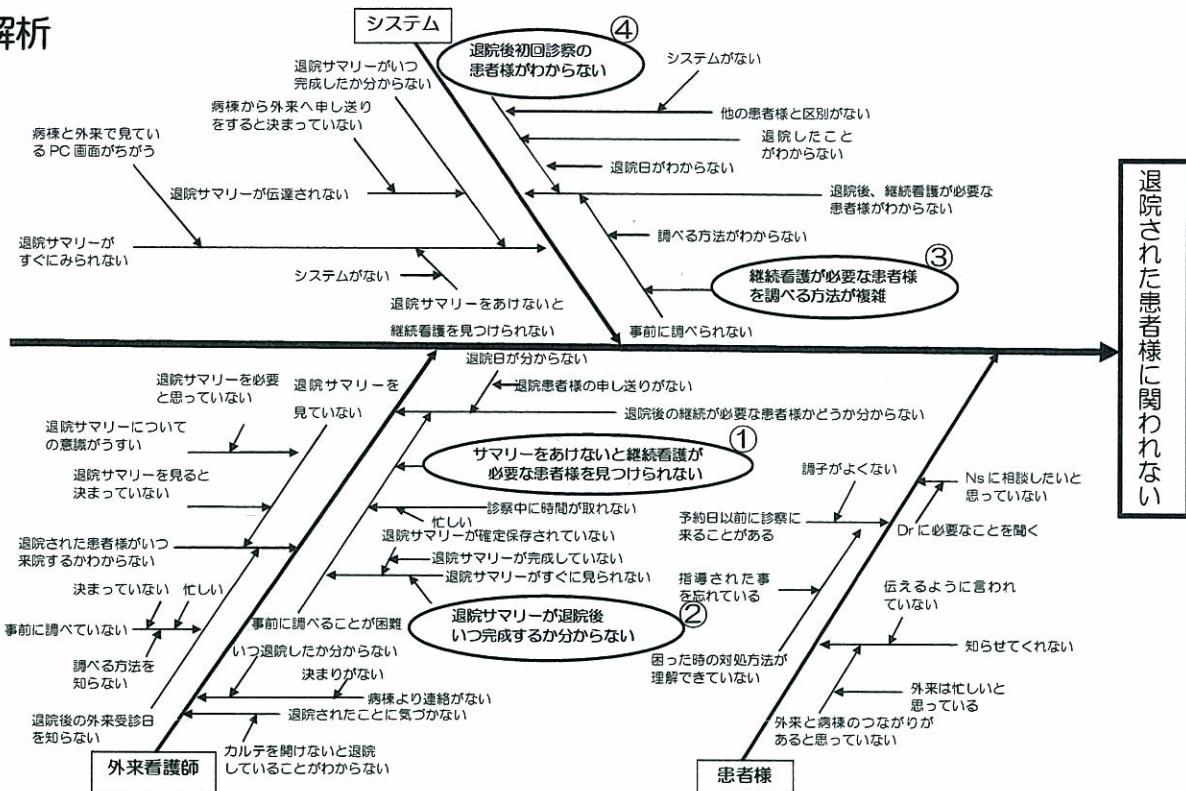


図3. 「退院された患者様にかかわれない」の連関図 作成日:H19.7.10 作成者:福田あ

7.重要要因の検証

表3. 重要要因の検証

作成日:H19.7.15 作成者:中谷

重要要因	検証方法	検証結果	考察	判定
① サマリーをあけないと継続看護が必要な患者様を見つけられない	他科(内科・外科・外来治療室)でどのように継続が必要な患者様を見つけているかアンケート調査した	・病棟より継続看護を申し送る基準の有無: 3部署ともある ・継続看護が必要な患者様の連絡: 3部署とも病棟からある ・病棟からの申し送りがあるときは、3部署とも退院サマリーは殆どある	継続が必要な患者様の情報が申し送られ、病棟→外来間の連携した継続看護が実施されつつある	○
② 退院サマリーが退院後、いつ完成するか分からぬ	退院後、いつまでに退院サマリーを書くようになっているのかを、病棟長に聞き取り調査した	・退院サマリーを書く期限: 退院後、次回予約受診日まで(業務上、日勤が専門に記入することが困難な状況にあり、実際は次回予約に間に合っていないことが多いようである) ・退院サマリーの記入漏れ対策: 表を作成しチェックしている	退院サマリー記入の期限に関する取り決めはあるが、曖昧になっている面があるため、次回受診日までに間に合わない例が生じていると考える	○
③ 継続看護が必要な患者様を調べる方法が複雑	現在の調べ方を検証した	・継続看護の必要な患者様の検索: 毎週水曜日に看護サマリーを呼び出し画面よりチェック 手順: ①看護サマリー呼び出し画面より病棟と期間を指定し、確定済みのものを検索②看護サマリー選択画面から出てきた患者様の内容確認③継続看護が必要な患者様のサマリーをプリントアウト ・次回受診日が漏れている場合: 赤チューリップより次回受診日を検索 ・チェック漏れ対策: 2週間の期間で検索をかけている	調べる過程が多すぎるため、現在の方法より、簡単な手順がないかを検討する必要がある	○
④ 退院後、初回診察の患者様がわからない	現在どのようにして退院後に初回診察の患者様かどうかを見分けているかを確認した	・退院サマリーがあるときは分かる ・診察についていて分かった ・診察時にDrとの話の内容で分かる	現在の方法も引き続き継続することで、漏れる確率は低くなると考えたため、改善の必要はない	×

8. 対策の立案



図4. 「退院された患者様に関わるために」の系統図 作成日：H19.7.31 作成者：上村

9. 対策の実施

【病棟からの申し送り基準】
 1. 日常生活で問題が起ころうな患者様
 ・転倒の危険性がある ・独居 ・家人の関わりが少ない（日中家人が仕事、家族関係に問題があるなど）
 2. ノンコンプライアンスの患者様
 3. 先天性股関節脱臼の患児
 *次回予約受診日までにサマリーが記入できていない場合（抜糸前で退院が問題ない場合は不要）

表4. 対策表

作成日：H19.8.17 作成者：田中亞

	Why	What	When	Who	Where	How
①	継続看護の必要な患者様の申し送りをしてもらうために	継続看護が必要な患者様の基準を	8/26までに	福田が	整形外科外来で	決める
②	サマリーを開けなくても継続看護が必要な患者様を見つけられるように	合同カンファレンスに	毎週月曜に	外来看護師が	会議室で	参加する
③	サマリーが退院後完成したことが分かるために	病棟師長と話し合いを	8/16までに	外来看護師が	整形外科外来で	持つ
④	直接病棟で情報を収集するために	病棟回診に	月曜日に	外来看護師が	7階西病棟で	参加する

10. 効果の確認

調査期間 平成19年8月17日（金）～9月27日（木）までの6週間

【有形効果】



図5. 効果の確認の図 作成日：H19.9.27 作成者：柏本・田中幹

【無形効果】

- ・病棟および他職種との連携をとる足掛かりとなった。
- ・継続看護の必要性を再確認することで、やりがいにつながった。

【波及効果】

- ・問題意識を持ち、患者様や家族より不安や相談を聞くことで関わりを密に持つことができた。
- ・受診時に患者様より相談されることが多くなった。
- ・患者様の問題別情報を記録に残すことで、部署内での情報の共有化ができた。

1.1.標準化と管理の定着

表5. 標準化と管理の定着表

作成日：H19.9.27 作成者：中田

	What	Why	When	Who	Where	How
標準化	病棟回診や合同カンファレンスのポスターを	継続するために	9/21迄に	外来看護師が	整形外科外来で	作成した
	継続看護が必要と予測される患者様を	正確に把握しておくために	入院時に	外来看護師が	整形外科外来で	リストアップした
管理	継続看護の基準マニュアルの追加・修正を	病棟との連携を継続するために	2回 / 年	外来看護師が	整形外科外来で	行う
	回診・カンファレンスの参加を促すポスターを	ポスターの破損・汚れがないように	毎月1日に	外来看護師が	整形外科外来で	点検・補修する
教育	病棟看護師や他職種スタッフとの連携方法を	継続看護の必要性を把握するために	入職時に	新人看護師が プリマー看護師が	整形外科外来で	新人看護師に説明する

1.2.反省と今後の方針

表6. ステップごとの反省

作成日：H19.9.27 作成者：後藤

ステップ	良かった点	悪かった点
テーマ選定	患者様のサービスにつながるテーマを選定できた	
現状把握	スムーズに行うことができた	
目標設定	妥当な目標を設定できた	
要因解析	様々な問題があることに気付けた	主要因を明らかにするのに苦労した
対策立案・実施	病棟との話し合いを持つことで、より良い対策が立てられた	第4手段にたどり着くのに手間取った
効果の確認	目標がほぼ達成できた	
今後の課題	業務時間内に行われる病棟回診や時間外に行われるカンファレンスに継続して参加するためには、チームメンバーの協力が必要である。引き続き病棟や他職種との連携をとりより良い継続看護を行えるように努力していくたい。	

1.3.追跡調査

調査期間

平成19年11月1日（木）～12月12日（水）までの6週間、効果の確認と同様に追跡調査しました。

【対策前】

- 関わりを持った
- 関わりを持たなかった

n=23

16人
69.6%

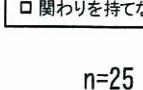


【対策後】

- 関わりを持った
- 関わりを持たなかった

4人
16.0%

21人
84.0%



目標達成！！

【追跡調査】

- 関わりを持った
- 関わりを持たなかった

3人 8.1%

n=37

34人
91.9%



追跡調査は対策後以上に多くの関わりを持つことができ、標準化と管理の定着は維持継続できていました！！

また、回診時に病棟看護師より「この様な内容でも情報提供させてもらっていいのでしょうか？」と声をかけていたり、病棟と外来のよい交流の場となっています。

1.4.今後の課題

今回のQCサークル活動は退院後の患者様を対象に継続看護をすすめきました。今後は外来で受け持ちをしている患者様や情報を持っている患者様が入院になった時に、外来で知り得た情報を病棟へ申し送り、病棟と外来がお互い継続看護が実施できるようになれば、さらによりよい看護につながるのではないかと考えています。

また忙しい業務の中、情報収集する時間をとることは難しいです。スタッフ間お互い協力しあい、患者様とゆっくり話をする時間をとれるよう努めて行きたいと思います。